

メディアセンターによる企画展示

第28回 慶應義塾図書館貴重書展示会

鏡花の書齋 —「幻想」の生まれる場所—

内容：コトバが紡ぎ出す「文学的幻想」と、それを生み出す「場」や「モノ」とのつながりを見える形で示す、という展示コンセプトのもと、慶應義塾図書館が所蔵する泉鏡花の遺品類を一堂に展示した。特に、書齋に焦点を当て、鏡花生前の書齋写真（提供：泉鏡花記念館）を基に、屏風や文机など大小の遺品を畳敷きに配置して書齋を再現することにより、鏡花作品の数々がどのような場所から生み出されたのかを、臨場感をもって感じられる展示とした。また、漫画家・水木しげる氏の『水木しげるの泉鏡花伝』に描かれたエピソードもパネルで展示した（協力：株式会社水木プロダクション）。なお、会場においてギャラリートークを2回開催し、各回とも好評を博した。（期間中の来場者は1,731名）

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社
協力：泉鏡花記念館、株式会社水木プロダクション
会期：2016年10月5日（水）～11日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー
ギャラリートーク：
10月9日（日）、10日（月・祝） 各日14：00～
松村友視（名誉教授）、
鈴木 彩（大学院文学研究科後期博士課程）、富永真樹（大学院文学研究科後期博士課程）



ギャラリートーク（松村友視先生）



ギャラリートーク（鈴木 彩さん）



ギャラリートーク（富永真樹さん）

主な見どころ：「鏡花の書斎」

会場内に4畳半の座敷スペースを仮設して、泉鏡花記念館から提供を受けた鏡花晩年（昭和10年以降）の写真にもとづき、三田メディアセンターに残る遺品をなるべく忠実に配置して「鏡花の書斎」の再現を試みた。遺品のなかには所在を確認できないものや劣化が著しく展示できないものがあるため厳密な再現とはいえないが、長い時間をかけて熱心に見つめる多くの来場者の姿があった。



- 正面 木製小箆筒・紫檀の文机・ランプ台
- 正面小箆筒上 草双紙『兎雷也豪傑譚』
- 正面文机上 波兎（水滴）・端溪硯・墨「宝薫」・珊瑚の筆置き・毛筆・きのこの紙押さえ・眼鏡
- 正面奥 火鉢・煙草盆・煙管・煙草入れの小壺
- 後方 貼り交ぜ屏風
- 左手 木製文机・大兎（手あぶり）
- 左手文机上 小戸棚・中印箱・置時計
- 左手小戸棚内 ペンケース・印章・印泥・木製の紙切り・地藏菩薩（小箱入）
- 右手 草双紙用書棚
- 右手書棚内 草双紙
- （参考出品） 座布団、半紙